

Book Review



エビデンス習得のための 統計リテラシー ～歯科医師のための医療統計学～

山本浩正 著

● ● ●

Reviewer

内藤 徹 Toru Naito

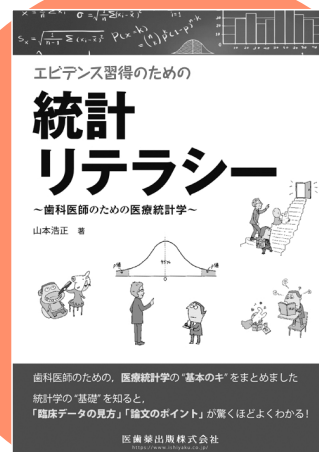
(福岡歯科大学高齢者歯科学分野・教授)

B5 判, 144 頁

オールカラー

定価 (本体 5,000 円+税 10%)

医歯薬出版刊



とにかく敬遠されがちな「統計学」というものが、達人 Dr. Hiro の手にかかると、ここまで読みやすくなるのかと感心してしまった。これ 1 冊で、臨床医が知っておきたい統計学の基本的な知識が網羅されているうえに、どのページからでも読める！ 統計学の本が「読める」ということはあまりない。ウソだと思ったら、まずはこの本を実際に手に取ってもらいたい。

採り上げられた題材の多くは、日常の歯科臨床、特に歯周病の臨床に基づいている。きっと、診療しながら感じ、考え、疑問に思ったことを解決するために、つねに分析を心がけているのだろう。実際に自院の患者さんのデータの分析を試みた例が次々と現れる。たとえば、Chaper 6 の「いろんな検定てんこ盛り」を開いてみる。患者さんの再評価時のプロービングデプスがどんな分布をとっているかを確認するために、Excel を使ってヒストグラムを描いている。ついでに Excel を使って平均値と標準偏差を計算している。さらには、統計の専門家が使うような

「R」というソフトを使って、正規分布か否かの判定までしてしまう。思わず唖ってしまった。臨床家がそこまでするか？ この本が臨場感にあふれるのは、実際に統計を使い、臨床で必要を感じたスキルの解説をしているからだと思う。

文献読解に必要な統計の知識を得ることができるのもこの本の特徴。既存の統計学入門書には、統計手法についての記述はあるものの、論文に書かれているグラフや数値の解釈について、丁寧に書かれたものはほとんどない。唾液中の歯周病マーカーでどれぐらい予後が予測できるか？ というような、臨床に重要な検査の特性を示す論文には、「ROC 曲線」という見慣れないグラフが使われるが、こういった解説がとりたてて詳しい。Dr. Hiro は、文献に理解できないことが書いてあるのは許せないのだろう。

「統計学」が苦手になる理由の一つには、数式が各所に出てくることだろう。本書にも、統計学では避けること

ができない数式は、どうしても必要なところだけ出てくる。しかし、心配は要らない。そこに書かれた数式のほとんどは、電卓で計算可能なレベルの数式だからだ。きっと Dr. Hiro は電卓で検算をしているはずだ。

それでも、もし数式に疲れたときには、少し読み飛ばして Column に進み、気分転換をしてもらってもよい。ウィットとスパイスのきいた Column は必読だ。「クスリ」とさせられたり、「ホンワカ」した気持ちにさせてくれる逸話に溢れている。

臨床家が「統計学」について少し知ってみたいと感じたとき——、論文を読んでそこに書いてある統計値の解釈を知りたくなったとき——、初学者が臨床研究の実施を考えたとき——、取りかかりとして、まず読むべきはこの 1 冊。内容の網羅性と正確さは、歯学部臨床統計の教科書に採用してもよいほどのレベル。お世辞抜きで、さっそく医局で購入して、大学院生に読むように勧めることとした。